



「心待ちのとき」

芝浦アイランドこども園
平成 30 年 2 月 1 日発行

先月、雪が午後から降り出し瞬く間に銀世界になりました。お昼寝から覚めた子どもたちは、驚きと喜びに窓から外を見つめていました。「雪が降っている。」「真っ白だね。」「ふわふわだよ。」いろいろなお話しが出てきて午後遊びを楽しみ、次の日の朝からどのクラスの活動も「ゆきあそび」に変更され、園庭やプラタナス公園で友だちと一緒に積極的に遊び込むことができました。

テレビや絵本で知る世界と違い、実際の体験ほど心に迫るものはありません。

自然に触れて感動する体験を通して自然への畏敬の念を持つように育まれます。積もった雪でゆきうさぎ、友だちと一緒にゆきだるまやかまくらを作り豊かな感性を働かせて表現をしていました。

雪合戦では、園内を駆け回ったり、雪をまるめて投げるなど、楽しみながら身体を動かしている姿も多く見られました。雪遊びに没頭している姿からは、友だちとの協力や関心・意欲の高まり、工夫が伝わってきました。

4 歳児さんも赤くなった両手をかざし「触って。つめたいよ。」「つめたいね。両手をこすると暖くなるよ」と言う。「少しあったまったかも。また雪さわってくる」と駆けていきました。

外の気温が高くなってくると、雪は溶けてきて水になり屋根からぼたぼた降ってきました。「雪が水になったね」と 5 歳児さん。雪の特徴も分かってきたようで、2 日間で心動かされた体験を通して多くの考える力を蓄えた子どもたちでした。



(園長 宇野 雪枝)

- 1 日 (木) 安全指導
- 2 日 (金) 豆まき
- 8 日 (木) 体力向上プログラム (4 歳児)
ほっとするコーヒーやさん
- 9 日 (金) 英語 (5 歳児)
- 17 日 (土) 4・5 歳児発表会
- 20 日 (火) 消火避難訓練
- 22 日 (木) 誕生会
- 23 日 (金) 英語 (4 歳児)
- 27 日 (火) 体力向上プログラム (5 歳児)



- 8 日 (木) こども園で遊ぼう
- 14・28 日 (水) 園庭開放

- 内科健診 21 日 (水) 0.1 歳児
- 26 日 (月) 0.2 歳児
- 身体測定 7 日 (水) 0 歳児
- 8 日 (木) 1 歳児
- 13 日 (火) 2 歳児
- 14 日 (水) 3 歳児
- 19 日 (月) 4.5 歳児

クラス懇談会

- 19 日 (月) あひる・ペリかん
はくちょう
- 20 日 (火) かもめ・つる
- 21 日 (水) しらさぎ・ふらみんご
- 22 日 (木) ペんぎん・こうのとり

こども園の教育・保育



教育・保育要領にも多く謳われている「非認知的能力」は、幼児期から高校までの子どもたちを育てていくために必要であり、その中でも幼児期に育むことが要となることが研究されています。非認知能力が育つということは、学習や様々な活動で難しい場面に直面した時も投げ出さずに根気強く続けることができたり、友だちと相談・協力することで解決法を見つけたりすることです。そこから自信や自立心など、生きる力の基礎が育まれていきます。

特に 4・5 歳児の頃に大きく発達すると言われており、こども園の幼児教育の中でもこれを意識した指導を行っています。たとえば発表会の楽器演奏では、以下のような成長が見られます。

- 「主体的な学び」・・・用意された楽器に興味を持ち、どんな音色か、どのように音を出すのか積極的に関わる。自分はどの楽器をやりたいか選ぶ。自分を強く持つ。
- 「対話的な学び」・・・練習の中で、同じ楽器の友だちとパートを組んで練習する。協力してイメージを共有していく。思考力の芽生えを育む。
- 「深い学び」・・・きれいな音を出すにはどうするか。1つ1つの音を感じる。みんなで作りあげる感動を味わう。試行錯誤して作り上げる。

- 0 歳児：寒さの中でも積極的に戸外へ行き、体を動かして遊ぶ
保育者との温かいふれあいの中で、自分の欲求を表現し、受け止めてもらいながら安心して過ごす
- 1 歳児：保育者や友だちと一緒に冬の遊びや季節の行事を楽しむ
簡単な身の周りのことを保育者と一緒にやろうとする
- 2 歳児：冬の自然に興味を持ち、触れて遊ぶ
身の周りのことを自分でしようとする
- 3 歳児：冬ならではの自然に触れながら戸外で元気に遊ぶ
生活の見通しを持って、進んで自分の身の周りのことをしようとする
- 4 歳児：発表会の取り組みを通して、友だちと協力し、1つのことを成し遂げる充実感を味わう
冬の自然現象に触れ、興味を持ち友だちと楽しむ
- 5 歳児：表現することを楽しみ、自信を持って自分なりに発表する
見通しや目標を持ち、自分たちで生活や活動に取り組もうとする
- 一時保育：他クラスの保育者や友だちと関わり、一緒に遊ぶことの楽しさを味わう
簡単な身の周りのことを自分でしようとする



第 3 回育児講座「グローバル社会と乳幼児の脳の発達」 講師：Dr.ハリール ハッサン

1 月に開催した講座では、乳幼児の脳が健全に発達するためには、親の働きかけが必要であることを学びました。近い将来、人口知能の発達により 45% の職業が AI にとって替わられてしまうとのこと。たくさんの情報もネットですぐ調べることができるので、これからの教育では、「ものごとを解決していく力」が子どもたちにとって重要となってくるということでした。

学ぶことには 7 つの効果があると考えられるフィンランドにおいて、学力の水準が急激に高くなってきた要因には、国として学校の宿題を失くして放課後は友だちと遊んだり家の手伝いをするなど社会性を築いていくことを重視した結果、学力向上に繋がったという見解でした。参加者アンケートでは、このお話に興味を持ちましたという意見が多く見られました。